

コールセンター Q&A

Q95

総合報告書のコメント欄に「溶血検体のため参考値です」と記載がありましたが、どのように解釈すれば良いですか。

A95

溶血とは種々の要因から赤血球の膜が破れ、ヘモグロビンが流出する状態です。これにより、遠心分離後の血清が赤くなります。（写真1）

溶血により以下の検査項目が影響を受けるため参考値としています。

- 1) 血球内の成分が漏れて偽高値になるもの
⇒ K(カリウム)、LD、AST
- 2) 溶血により漏出した分解酵素で偽低値となるもの
⇒ インスリン、BNP

上記以外の検査項目でも著しい強溶血では検査不能となります。

また、溶血の主要因として以下のように採血手技に注意が必要です。

- 1) 消毒用アルコールが乾いてから注射針を刺す。
- 2) 採血管の陰圧のみで移し、シリンジを押し出さない。
- 3) 規定量より少量採血になった場合、再び採血針のみを栓に刺し陰圧を解除する。
- 4) 23G より細い採血針を使用する場合、シリンジ採血にてゆっくり行う。

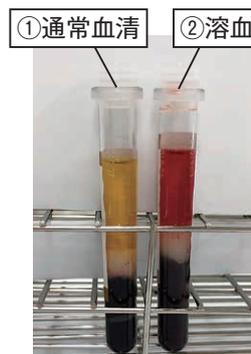


写真1

お問い合わせ：☎代表 0120-14-7191(フリーダイヤル) / 担当 生化・免疫係

*ウェブページでもご覧いただけます。http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/

きやちボール

今年1年も終わりが近づいてまいりましたが、私が一番印象に残ったのは、大坂なおみ選手が4大会のシングルスを制した初の日本人選手となったことです。全米オープンテニスでは、メンタル面での成長により、最大限に力を発揮！途中、セレーナ選手の審判への猛抗議にも心乱すことなく偉業を達成されました。彼女の強さだけでなく、その後の素直で謙虚でチャーミングな受け答えにも心奪われました。平常心を保つことを見習いつつ、これからも彼女を応援していきたいと思えます。

さて、今回の特集では尿中一般検査について特集をしました。尿検体は各疾患の入り口となる情報が得られ、患者状態の異常を簡便に観察できる検査の一つです。異常データから何が読み取れるか？を検査員も考えながら検査を行い、先生方のご質問に対応できるよう、今後もスキルアップに努めてまいりたいと思えます。

坂根 美保子（検査科血液・尿一般係主任）

<広報委員> 谷敷 圭美 / 枡本 健 / 藤井 ひとみ / 三宅 康雄 / 加藤 与旨多 / 藤本 彩咲日